

1976-08-01 (84) G1 → ABC ⊗⊗⊗⊗

4:30 起床。天気悪し。宿営用のテントのラッセルをしたにもかかわらず、南側の入口側は真黒になるほど吹雪が溜っていった。日本の冬山並の悪天の連続には全く見通しもつかず困ったものである。ただ毎日、悪天といっても少レづつ状況の変化はある。どうも8月に入ってはしたが、まだアタックだけを残すのみであり良い状態とは言えるが、そろそろC2のキャンプも恋しくなってきた。今日は、どうもC1の食料もつきてきたのでABCへ下降する事になった。全員ABCのうまい空気を吸ってこれば元気が出て、アタックの時には活やくできて良い結果を期待したい。

PM8:30 A,B,C, 高度5205m 天気は回復に向った様である。

C1からABCへの下降は、中村-鶴谷一本、田中-岡本、井上-巖谷-総の3 Partyとして下降する。積雪量は40~50cm程度で、かなりの湿雪である。ラッセルは、下降なのであまり問題ではない。

氷-フィックスと、その上の氷-フィックス手前の小さな急斜面で板状雪崩が発生。一発目は、中村、鶴谷が流され、サレルの張力で木本が左足を少しいためる。約30cm厚のきれいな小雪崩であった。中村氏の流された下の7バズは大きく深い口を開けていたので、中よで流されていたらたいていへんだらう。氷-フィックスの雪崩は、事前に予想されたので、全員の下降態勢をいって、木本にもユマール確保をさせる。やはりに水も板状が切れる。新雪、板状、アイスワールといったところ、グレードは1。

全員で8名がどっとABCへ下降、再びカマホジテントの住人となる。

Ased (H.P.) が一人世迎えてくれる。

"C2 → C3 間の fix"

|           |           |          |         |    |
|-----------|-----------|----------|---------|----|
| C2 - P9 間 | 8m x 200m | スリバー 7本  | 2711-1  | 2本 |
| P9 - 最低点  | 8m x 80m  | 6m x 50m | スリバー 7本 |    |
| 点L - P7   | 8m x 130m | 6m x 50m | スリバー 3本 | 3本 |
| P7 - C3 間 | 8m x 200m | 6m x 70m | スリバー 6本 | 1  |
| fix 780m  | 610m      | 170m     | 2本      | 16 |
|           |           |          | 2712-   | 6  |

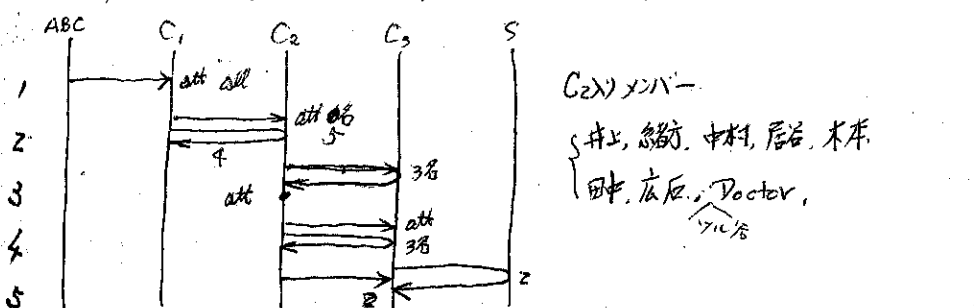
1976-08-02 (85) ABC 決. ⊗⊗⊗⊗

終日小雪、気温高く湿雪がしんしんと降る。ABCへ下降して休養としたが、対策としては正しかたかと思え、ABCの積雪量も50cm程度であった。

候は、広石、尾谷、2体調不調者が多くいたが、二数日の悪天にてABCへ下降する事により、かなり復調するものと思われる。今日はまだしんしん降るが、明日あたりから濃い空気のおかげが出てくるものと考える。

今日は、一日でも食料を引きのばそう。朝は、アタのまじり。昼はアタによるアタパンと、アタパン、ドーナツをサラダオイルであげたもの。夜は、日本食で木本君指揮にてちらしずしが登場した。

アタックについて、ABCまで下降してしまつたので再検討する事になった。



高所の影響と調子の悪い要注意のメンバーは、田中、広石、巖谷の3名である。それ以外は、3人づつはいるが、C2以上での行動は慎重にやらねばならぬ。ABCでの決は、やはり十分な休養にむく様で、セキワヤ、肥後、腫ワラ、ECG不良等、たか見ちがえる様は、元気になる。

1976-08-03 (Sat) ABC 氷殿

⊗ ⊙ ⊙ ⊙ ①

am 5:00. 雪はやんだ様である。平井先生とC、入りについて相談する。まだ完全に天気が回復したわけではないので今日一日雪崩の心配もあるし、雪も降り止むかどうかわからないので今日一日安全を見て沈とした。

食糧はABCに50人日分、C3用としてきたものが50人日分ABCに予備食が50人日分であと15日間は完全に預張れるわけである。

帰路-広石, Asad, Shakool Ali, Ramayan, Ali Rozaの6名は、B、Cへ逆ボッカ、H.P.達はRationも切れるのでB、Cの予備食ほか宿等のRationも取りに行く。AsadとShakool Aliには7、110をはかせて、ラッセルさせてみる。アヤドが先頭で、如ABC登りBCへ向かう。ラッセルはやはりいさぐらいで7、110が役に立つ。B、Cには2~3日前にMohammad Chooが手紙を持ってきてきているので今日は中村氏からMail Runnerの支払いと、アヤド他の支払い分の金を1名岩広石に持たせて、B、Cへ。

Capt.とスバルにHandy Talkyで話す。彼も良く預張ってくれている。110にシヤビで、こんなに雪に降り込められたらしんとい事であろう。ストーブの調子が悪いそうだが、ABCにも良いのもうないからしかたあるまい。

pm 1:00 Captとトランシーバー交信する。B、Cへの逆ボッカ隊はまだB、Cに着いていない。

帰りのトランスポートに南極原価計算をやってみる。約50/kgの輸送コストが必要である。これは、船便にした場合であり、アヤカンの場合は、約1000/kgのコストになる。従ってほとんど全てのもを捨ててしまつた方が安くつく事になる。帰路のトランシーバーは、ボラー20名ぐらいで、楽々と行程を進めたいものである。これも私も全て登頂してから話してはいるが、荷装も不要品は全て、捨ててしまふ。ポンティからのトランスポートは、アヤカンにできるぐらいにしたいものである。

雪もやみ、南方にもやぶ青空が見えてきた。明日はC、入りし、いよいよアヤド7に移ってゆくわけである。待ちに待ったというところか。

アヤド7については再度Member etc. 平井先生から決定も全員に伝えてもらう必要があるだろう。いよいよにしても、これから数日が最も預張らねばならないところである。全員体調も良くなってきた事だし、何とかなるだろう。

雪も今日、明日の2日間でおちついてくれる事を願う。C2へのルートが雪崩に就て最も危険なだけに、雪のしほり具合は気になるところである。明日のC、入りのラッセルは人数も多い事であるし、7、110をつけて行けば、そんなに暗闇のかかるものではないだろう。

pm 4:30. B、C逆ボッカ隊 5C着。支払い関係をおそく4:00前に5Cを出発しようである。前回の卵 Rs 30 - , 本日卵 Rs 40 , =77 Total 4卵 Rs 75  
かつ本日 Rs 150 - Mohammad Choo Rs 1500 - Khurkondoo 77 Rs 30  
×2日 = Rs 60 ... これは今回のみ。前回は連絡がたかえているので、これに關してはRawalpindiへ帰って清算する。本日の金銭関係はこれで済む。午後になつてようやく晴間がのぞいてくる。上空の空の青さは又かくべつのものである。5日か6日ばかりのことである。昼食は焼そばのお好み風のものを作る。

pm 6:00 5240m (ABC高度) 天気は良くあつてきた様である。

いよいよ本物の晴天がもてきた様である。明日はC、入りである。今度か最後のチャンスとなるであろう。今、夕方晴れた Skyをみると美しい。

pm 7:30 4人のH.P.と1名岩広石がようやくABCへ到着、Hassanがアヤドかたけからもらった、コバニーをABCへ上げてくれる。今年、新鮮なコバニーは初物。デザート、ポンティフルーツカクテルに2コ入れて食べたが、実にうまかつた。

1976-08-04 (87) ABC → C1 ①◎①①

am 5:00 起床 昨夜、つる谷、広石の帰幕が遅くなり、夜がおそくなる。  
 7:40 ABC 発 11人27人は3名、Shahood Ali 雪目のため決  
 13:20 C1 着、連日の降雪のため、セル深し、フ、ハを使う。  
 15:00 俊さん、つる谷 Doctor C1 着。(他6名はC1、フ、ハのラッセル)  
 井一本、広石-中村、居谷-緒方、の3Party が交代でセル  
 ル。C1へのルート確保に努めた。今遠征初の50cm以上の積  
 雪であり、フ、ハを使うのも初の事である。気温が高くなって、アイス  
 ンなら、タンジになってしかたがないと3である。ハスホ-7 達は今日は  
 ラッセルが深いので、サーブより先へ行く事はない。

C1入り、Doctor から C2入りする6名について、心電図checkを受ける。  
 pm 5:30 Sheepie 南壁の上から2段目のHanging Glacierに雪崩  
 発生。下の7崩壊に伴う雪崩で大雪煙をあげ、一部雪煙はC1に  
 も達した。

明日からの予定決定。C2入りメンバーは、中村、井、緒方、木、広石  
 とする。ECGのフェックによると中村氏に肺の負担、緒方に高所形  
 ECG。広石にも負担ありといったところである。

attackについては、7/27決定した6名C2入りで一日にてC2建設す  
 る方針。今までは詳しく各自がどんな健康状態にあるのかわからず  
 いたが、今日からは、6000以上で事故の発生しない様に各自にそれ  
 ぞれの健康状態について、知らせる事にした。緒方については、T.B.C  
 おたりでも高所形心電図が出ていて、それによって、自覚症状として現れ  
 ないので今後高所によって、どうなるかが心配である。バラサーブは  
 本件に關しては、よく知らぬはずでもあり、何らかの事を考えているもの  
 と思うが、アタックメンバーの変更は今のところ考えないという事である。C2  
 以上特にC3入りの時に彼の行動の事についてよく注意しなければ  
 ならない。とにかくC2入りの6名については、相互フェックが必要である。

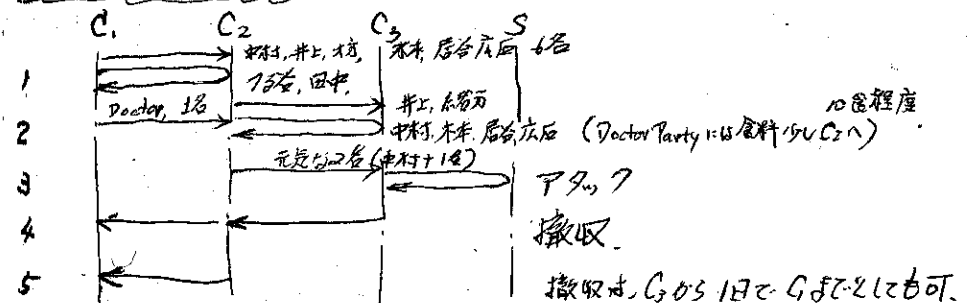
1976-08-05 (88) C1 沈



4:00起床。にこい事に又マ、雪が降っているではないか。夜明け前には  
 6:00 朝食終了 出発 山よりであるが、小、雪がちらつき悪天に  
 つき、今日は又もや沈と決定する。バラサーブとの交信でもH.P.達  
 今日悪天で動かないとの事である。朝からちらちらといた雪も昼前には、  
 本降りとなり、昨日つけたせいかのレスもほとんど消えてしまう。この困  
 のため、共同セルも壊れてしまっていたので今朝は、トイレを作って、さそく使用  
 する。昼食までに何とかぬむたかたので、よほど昼寝をする。久しぶりのこ  
 とである。昼食は、ワッカードチーズケーキをふるまわれて、午後は、俊さん、つ  
 る谷と、久しぶりに花札を2ラウンドやる。

pm 4:00 高度5885m 気圧の低から考えても悪天である。しかしお水にけ  
 連日、悪天が続いた後であるのに、つた2日の曇天の後に再び雪に降るなんて、何と  
 不運な事であらうか。あと3日の晴天がほしい。中村氏は世界の歴史のNo.5  
 西域エクスラムを声を出して読んでいたが今は少しおやすみ。

明日からの行動予定



全員がこの連沈にはいささかおきぎてしまった様である。8月10日までは何とか  
 勝負がつくものと思われ、さて、どんなものか?

C1で水作り用にセルとしていたツェルトも60~60cmくらい下にうもれて  
 しまっていたが、木本君が傾揺って昼から振り出してくださる。これは、C2  
 で、C3、食料を6人が入る時に示すために使用するつもり  
 である。ごくろうさま。

夕飯と済ませて後由暇を持てあます事2,3時間。酒の話も、女の話しも多々出る。独身が多いせい結婚話もする。これは日本に帰ってからいろいろと忙しくなりそうである。

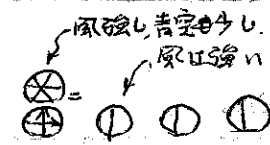
Pm 7:30 ちよと雪がやみ、月が顔を出す。明日のC<sub>2</sub>のルートは新雪に苦しめられそうである。今日一日の積雪量は約10cm湿雪である。これが底の下までのP10のルートにどう影響しているか問題ありである。雪崩には十分注意しなければならない。おと3日。頂上への道は何と云いもいものか。平井先生はABCにて一人さびしく。Pm 6:00のABC夜送、又曲。B.CのCapt.の天気予報は明日は⊗の⊙をさうである。

アタ、アキャン7を建てるまであ2日。たった2日の晴天でアタ、アキャン7になるわけであるから、待ちの一年が必要である事は言うまでもない。

紹介に小枝子という話しや、西村先生のお嬢さんを中村氏の小生にいった話。西村先生のお嬢さんの件は、以前八田氏にどうかという件が鶴谷さんを通じてあった事である。しかし、先生はあくまでも先生であり、お嬢さんと言うにはやはり、困難があるというのが結論であった。

後さんがC<sub>1</sub>入りしてから再び腰痛やじetcになってしまふ。やはり年だからか。しかし、37歳にて、カラホルムの7000m峰にattack意欲を持っている事はすばらしい事である。小生は二次に参加を決意した時は、我々の仲間がたれか頂上に立てば良いと考えていた。今回西村にルートをとって、6500mのP-9を突破、頂上へのアタ、アキャン7が可能となっただけでも幸いである。隊員の中には全員登頂か、2次3次アタ、アキャン7を志願する人もいて、C<sub>1</sub>にて平井先生とアタ、アキャン7について話した時にも小生は今回は幸せであると感じ何も言わなかった。

1976-08-06 (Sat) C<sub>1</sub> 決



4:00 起床。今日もCapt.の天気予報があたったか？悪天である。  
5:00 朝食。C<sub>2</sub>入りを期して、もち糰子を食べて準備したが、風と地吹雪が強し、しかも気圧は5880mであり、好天の気配はない。  
6:00 ABCの平井先生と交信。ABCはガスがかかっているようである。H.P.も今日はC<sub>1</sub>には入っていないであろう。  
7:30 ⊗ 風強し、地吹雪。花札南帳。C<sub>1</sub>の8人用テントに9人入って、賑わいにおきている。風は、シヤンゲルムのコルを越してやってくる。高度計 5880m 変化なし。高量計に時々ガス  
12:30 ① 快晴 高度5880m 気圧が上昇しないのか気になるが、とにもかくにも晴れてきました。おと3日雨晴れが続く事をいひの5か5かどうなりますか？

アタ、アキャン7後上部キャン7でアタ、アキャン7

1. C<sub>1</sub>における測量。C<sub>1</sub>上のice fieldに基線を設けて、カトリゴ基点にShoyuの頂上、キバ、各ピーク、シヤンゲルムの測量とやる。(1日仕事)

2. C<sub>1</sub>にてマニマニスによる撮景

シムビ、カンナの各ピーク、氷河、コル等に名前をつけてやるのもおもしろいのではないだろうか。天気の良いときは、スケッチをして、名前付を考えてみたいものだ。例えばP-9は、頂上部に岩があり、ABCからも良く見えるし、良い名前がほしいものである。くらげ、クラン、入の字ピーク、etc. シヤンゲルムも良い名前はないか？

シムビ南壁は、先日Dロ、7崩壊があったが、頂上部のDロ、7も何となく不安定になってきた様な気がする。これが雪崩したら、C<sub>1</sub>も少しビビンする気があるが、氷河の傾斜がゆるすと、大きなDロ、7がC<sub>1</sub>にとくとはな

様な感じである。

朝の Shepi 側の入口を2回ほどラセしすが、こはまき風があるせいか、入口に吹きたまりができてかたがない。少し湿雪で、ホコに行つてしりか洗われるほどの地吹雪も。

朝食後の暇は時花丸に参加する。3ラウンドに参加して、1(峠+55, 田中-155, 鶴谷+100), 2ラフ(田中-40, 鶴谷-280, 峠+320), 3ラフ(鶴谷-220, 峠-130, 峠+350)以上の結果である。2ラフ後俊さんはテント廻りのラセルもやってくれる。本日中村氏は頭痛がひどいという。よくいろいろと体調の変化がある人である。

12:00. 例によるビスケットの昼食を済ませる頃、外は日がさし晴れてきた。今日は半日損をしてしまった様である。明日は確実にC<sub>2</sub>入りしなければならぬ。C<sub>2</sub>以上の食料についてもきちとチェックしておかねばならぬ。ABCからの補給もやっておかねばならぬ。ここからはたいへんである。

14:00. ① 西風強く、サレ口はレンズ雲。またまた雲も多し湿気もある様だが、晴れてきた。高度 5870 m.

マツ、7の事をあれこれ考えて見るのも楽しく、又、エキサステイブな事である。頂上にたつた時、たいへんをすたろうか楽しみにである。瀧が出るものなのか、にっこりするものなのか。

夕食前 C<sub>1</sub>廻りも晴れぬたり風も収めてきたので外に出て、マシヤフラスを使って写真を撮る。セルビ、西稜の連続写真とサルトロ、カニの夕景も3種のフィルムにとる。

今回C<sub>1</sub>に入るとき上げたマトンを料理。カラアゲとスーフの夕食に作った。肉をバラすのに1<sup>h</sup>30'もかかってしまった。しかし、肉もやわらかく、おいしい夕食だった。こま切れを数を数えて、15枚ぐらいは皆におたつたであろうか。 5860<sup>m</sup>と5870<sup>m</sup> (p<sup>m</sup>7:30)

Attack関係メモ

1) 装備(共装)

|                                     |                                     |                      |                |
|-------------------------------------|-------------------------------------|----------------------|----------------|
| ツェルト                                | 1                                   | テルモス                 | 1              |
| マフカー                                | 1                                   | カラ(エコ)               | 1              |
| 望遠鏡                                 | 1                                   | 国旗 (Rk. JPN)         | 1 set          |
| 鋸の鋸                                 | 1                                   | ス、チ                  | 2              |
| 8 <sup>mm</sup> ガイル 50 <sup>m</sup> | 6 <sup>mm</sup> ガイル 50 <sup>m</sup> | 6 <sup>mm</sup> 紐    | 6 <sup>本</sup> |
| アイスバレル                              | 1                                   | カラビナ                 | 8              |
| アイスクロー                              | 5                                   | 単車                   | 2              |
| 予備電池                                | 2                                   | ラテルネ                 | 1              |
| マツ、ク食                               | 1 <sup>式</sup>                      | 高度計                  | 1              |
|                                     |                                     | 8 <sup>mm</sup> カメラ  | 1              |
|                                     |                                     | フィルム 8 <sup>mm</sup> | 1              |

2) 個人装備

- 靴下は予備一枚
- C<sub>2</sub>を出る時にニッカーのかわりにギンゴクズボンをはく。
- 毛の巾着は3足
- 上はセ-9、マ、ケとする。
- セルポストガイルからはユマールをはずす。(不要)
- 木バーシツ 1

3) その他注意事項

- C<sub>3</sub> (6800<sup>m</sup>) での一夜は酸素を 1.0 l/min にて、2人で吸ってねる事。
- 国旗を忘れない事。
- 頂上には、一次隊員、二次隊員の名前を書いた紙の、つたピスト缶をうめる事。
- マツ、7日は C<sub>1</sub> のトランジバー C<sub>2</sub> のトランジバーともに終日 ON にしておく事。
- 覚せい剤の使用は最悪の場合、ビバー7にたつた時に使用する事。

1976-08-07 (90) C1 → C2

①①①①

PM 5:30 C2 高度 6300m

ヤシマツツを目的にC2入りかできた。

am 4:00 起床。今日こそはC2入りをして6:00ころに起床。再び雑に朝食をとる。

am 6:30. 6時には出発しようとしていろいろしてみたが、何せ9人の朝食後に8人が出発するとなるとは、11:00時頃もかかるものである。先日の雪のためC1上のsnow fieldもラッセルがあり、木本、居谷Partyが7:00を過ぎて視界がくくれる。ヘルツェルグからHanging Gl.のルートは、新雪のおちたテトラに部分的にフズかうまてしまひ、振り出すのに時間がかかる。庇の下に9:00着であるから2時間半もかかった事になる。ここからP11へ出る所は、フズのスネルかできて、おさまからShyuiの頂上が見えるのも楽しいものである。再び木本Partyがラッセルを頑張ってくれ、昼食点を着くも11:00をすぎている。チゴリサ、K-2、7ロード、ヒョー7、etcも見える。

PM 12:30 C2 着。ラッセルのためずいぶん時間がかかってしまった。C2は2日ぶりに入るわけであるが、テトラの屋根まで雪がうもれてしまひ、テトラフレームが1ヶ所折れて、テトラが長さ200cm程、やぶらぬいた振り出すのに3時間ほどかかり、テトラの中におちついたのは、もう6時前であった。6人がテトラにぬるとクシキウクツ。

これからか頑張りどころであるというのに、中村氏は、いまたぐすど言っている。つる谷氏は、初のC2往復、後さんはDoctor stopの噂さしいようにC1へ帰っていった。広后は、浮腫の心配はあるが今日は元気に休んでいた。

時計がストップしてしまう。不便。ひらいもの時計ではやはりかんじんの時に役に立たなくなってしまう。

C2の午前昼食点(テトラ)からは緒方、井上Party 17:00で登った。

1976-08-08 (91) C2 → 仮AC (P-8) 6500m

①①①①

am 4:30 起床。今日はAC建設という事で元気をださねばならない日であるが、出発が8:00になるというミスをしてしまひ、積雪のためラッセルを重ねて進まず、P-8の上に仮ACを立ててstopしてしまつた。天気の方は相変わらず変な具合であるが、P-8上は快適な展望台であり、良晴れたらすばらしい写真がとれる事と思う。

P-9の登りのラッセルに車両取って、最低エール(なまぎの口) 6450mに11:30着、P-8には13:30着という事になった。中村氏の調子があまり良くなつたのと、ラッセル、重荷のため、考えてたほどに上部へ登れなかつた。おから雪も降っていたし、何となくP-9越えは難ルートである。元気なもの6名がとつてこそ、C2建設がやれるわけで、今日の様に、木本、居谷パーティに17:00をまかせきりというのでは先へ進まない。これで一日ロスしてしまうが、マツツキャン7は何としても肩の下におかないと、頂上は確実にと言いた。

P-8上の台地にて、PM 2:00になるのを待ちかねる様にして平井隊長と相談し、P-8上、6500mを仮ACとして、明日このACのアルク隊員2名が、C3予定地の6800mまでルートワークし、C2から4名がサポートホリカにあたる事とした。P-8までは空身で登ってくるので、7:00出発して、10:00にはここP-8に着くであろうから、井上、緒方が6800mまでルートをつけておけば、仮AC建設をはたす事ができるであろう。

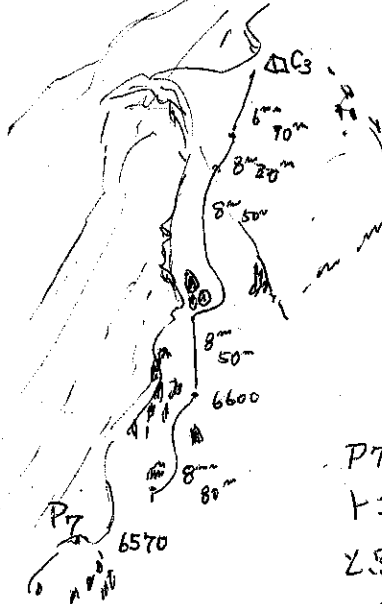
Doctorとこの高度での酸素使用について相談するが、特の身体に異常はないかきり、今日一日、後酸素において、明日C3で酸素を使用すれば、効果が大きいとの事であった。従つて今日は、井上、緒方ともに初体験高度ではないので酸素は使用しない事とする。

夕方、P-8台地からは、ホリカ、K-6、K-7、チゴリサ、K-2他のカラコルムのシヤイニトが遠く近く林立してすばらしい。明日は、良い天気であろう。肩の下までルートは何としてものはしたい。

ほんとうにあつた日である。神さま... と言いた。いこる。

PM 7:00 6490m

1976-08-09 (92) 6500 仮AC → C3 6800 ○○○○



6:30 起床 仮ACには緒方と石 新しい  
3L用のテントで月さします。

今日の行動は、マクク隊員2人が肩のせいで  
F 6800mまで個人装備を持って、仮ACから  
ルートワークをやり、サホトの田中、木本、広石、  
居谷がC2から空身で、仮AC(6500)までやって  
きて、C3用品一式をルートワークのあとから  
C3(6800m)へ荷上げする事であった。

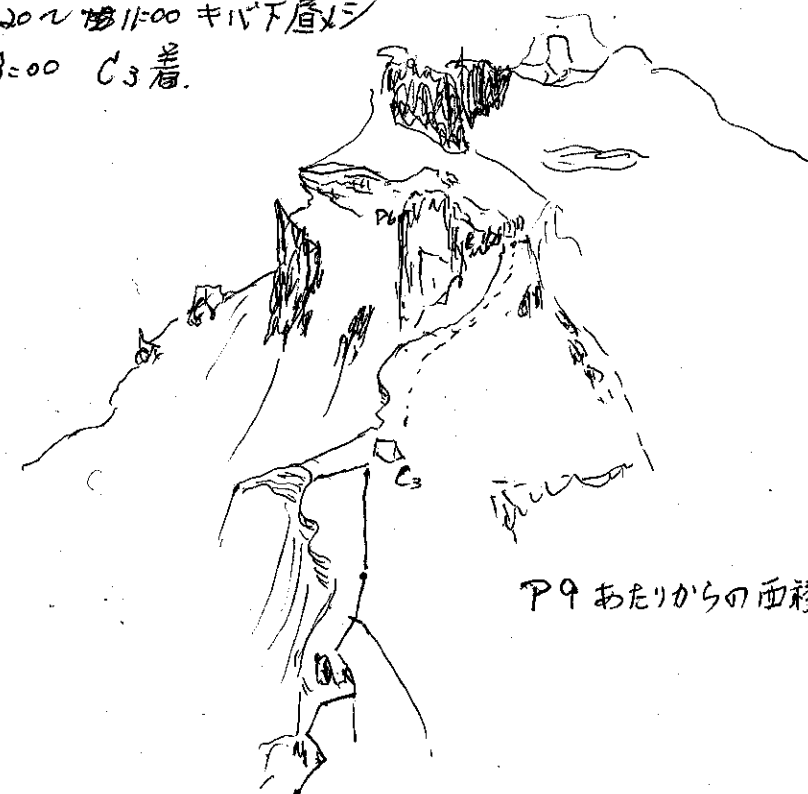
P7上部までは、12日前に田中、木本、サホトがル  
ートワークを完了してくれている。P8からしばらく、不要  
と思われる赤のサイルを70~80mほどカットし、P7  
のテントも持つ。(P7には11ヶ所4枚、ハンマー、6mm

約80m、スチューが残されていた。) 6570mからは、小生、T、Pで、肩の  
下の台地めざし、fixをはじめ、fix方法は今までのサ、サイル方式から  
スピードアップのため、7-ポイント&fix方式に変更した。小さな露岩の間から  
スタートし、最初の岩稜基部まで登る。少し積った雪にキックステップ  
でスピードをあげ、C型ハンマーを岩に打ち込み、そこから右側を巻き込んで、  
一段登り切る。7-ポイントした雪面は内側がクレーン糖で、ラ、セレスタンス作り  
がたいへん。ほぼサイル-はいて雪底にスローを打ち込み、後続の緒方の登  
切りのを待たず次の50mを延ばす。サホトの俊、木本、居谷、広石がもう  
なますの口を出発し、P-8の上までやってきた。前日の通り、木本、居谷Partyが  
T、P、三ツ卯岩から緒方、T、Pで50m雪壁をfix、20m青サイルをさらに  
7-ポイント、次に交代して80mの6mmを小生fixして、肩の下の台地に着く。  
サホトの4人は、ワークを待ちながらC3入りした。木本が荷が重いとこぼしてい  
た。テントを立てるのを手伝って、22:30 4人は疲れた足とむきむきで、  
C2へ下っていった。ほんとうに良くやってくれた。

1976-08-10 (93) 登頂 am 9:15 ○○○○

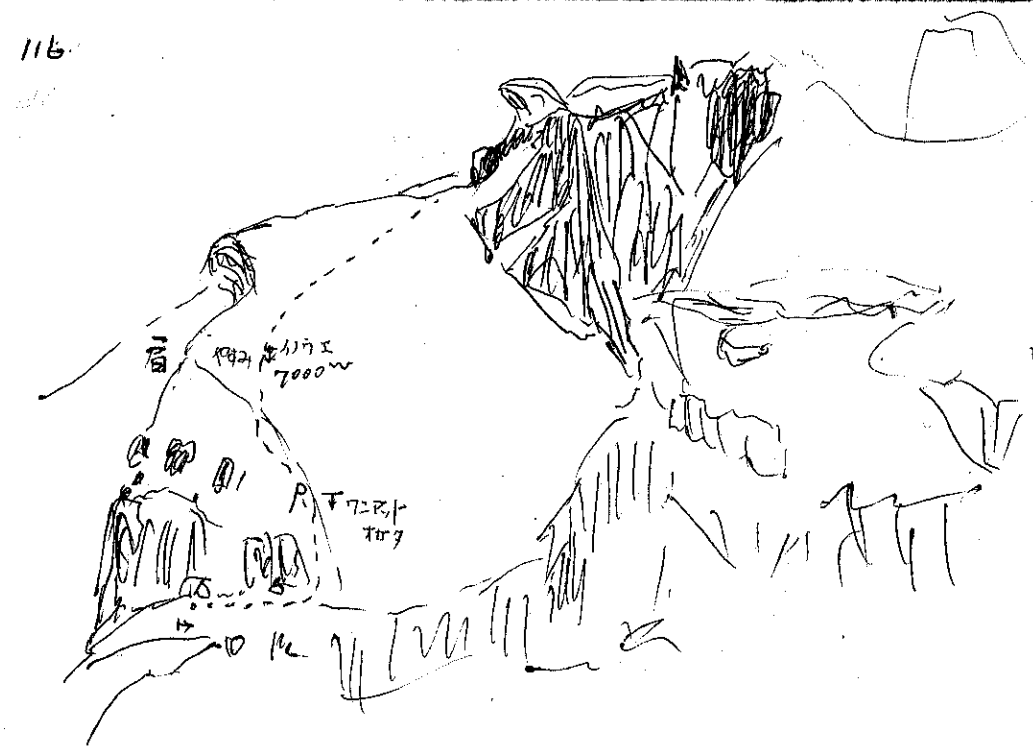
登頂記は別紙

- 2:00 起床
- 4:30 出発
- 7:00 肩。(
- 8:00 P5(頂上岩稜)
- 8:50 キバ下
- 9:15 ~ 10:10 頂上
- 10:20 ~ 11:00 キバ下層Xシ
- 13:00 C3着。



P9あたりからの西稜上部

いよいよ待ちに待ったマククの日がやってきた。マクク隊員は井上一織。  
緒方は、P.CあたりからECGに高所影響が出ていたが一度も  
高所障害らしきものが出ておらず心配されたが、マククの日も  
元気だった。



7000m

7000m

キハ



頂上の氷と雪の痕跡を探検して



C3



## "attackに持ていった装備"

アタックザック, 羽毛服, 袋3, 靴下1, ヌッケ上下, カムラ (Eコフ2)  
200mm望遠レンズ, セルフスト, ビケル1, 高所帽, ラテレン,  
フレズ1, ツェルト1, ナイフ1, アイスバール1 (F79-060) アイスハンマー1,  
カラビナ12, ガイル 8mm x 50m, アイスリ-ケン6, ヤムク11-ケン6,  
お縄20m, フィルム7本, フィルター3枚, 水取りホウキ1,  
ビー缶 (名前入り) 横 (日本, Pak) 1式, 雪温計1, 高度計1,  
ブタンバーナー, メタルカー, 覚せい剤, 1ピル, トランシーバー1  
予備電池2 (006P) 食料 ( 飢)

## "頂上からの展望"

カトリカニリが最も大きく我々の頂上にせまってくるものと思っ  
たが意外に小さく見えた。ゲントもそんなに高く大きくはなかつた。  
フョゴリガ, マンチャーブルムも遠く, Shoyuは立派な山に見え  
ました。東峰, 一の東北峰南稜も良く見えた。がオールドは,  
吊尾根のナイフリッジが意外に厳しく, 二峰の吊尾根側の  
下降部は, P9よりいやらしくうだうだ。ゲントへの稜線は,  
最低コルまで岩稜岩壁となっていた。カベリ氷河への氷  
河は, 大きな氷河で, 北三ツヒ氷河とて言うべきものだっ  
た。

K-2は, 登山は登るほど大きくなっていく。頂上からは他の山の上  
にぞり立っていた。アトサラス, シンギ, カニリは, 遠く小さな  
ヒョウに見えた。Seachenの白さがひととき目立っていた。

1976-08-11 (4) C<sub>3</sub> → C<sub>2</sub> → C<sub>1</sub> ○○○○

4:40 起床

7:00 C<sub>3</sub> 出発 10:00 C<sub>2</sub> 着 13:40 C<sub>1</sub> 到着

C<sub>3</sub>の撤収とC<sub>2</sub>の撤収を一日でやることになる。酸素を吸った中村, 尾谷も  
やはり初のC<sub>3</sub>での一夜は体が休まず, 朝は顔をぼろぼろしていた。サポート  
御苦労様でした。C<sub>3</sub>の朝はすばらしい, 朝日に照らされた, フョゴリガ,  
マンチャーブルム, ムツク-ク-ク-ク, K-2, マンチャーブルム, etc. ゲントも  
真近。C<sub>3</sub>用のテントは持ち帰る事にして, ホールの荷の重量をきり減らす。  
P9, P7隊員の2人は, 酸素なしで寝たが, P9, P7前夜にねむれなかつたせいで,  
ぐっすり睡眠をとる事ができた。尾谷君が, 余月になってまたアタック食  
の整理を兼ねて, 朝から牛肉の大鍋煮入りの雑煮や, リーゼン缶をあげ  
たりしてくれる。

ここC<sub>3</sub>からC<sub>2</sub>までは, fixがあり, 比較的安心して下降できる。しかし,  
何となく North Shoyu Kangri GL (仮称) まで2500mほど, シャン  
ブルムの氷河まで約1000mほど切れている。そんなに安心はでき  
ない。P-8では, 表外線フィルムを使って写真をとる。尾谷もなこりお1巻に  
しめた。肩の下の台地は, 高度6800m程度か? 昨日のP9は,  
肩から上が以外にやさしくて 9:15登頂とほめたが, 今日再び見上げ  
ると, 肩までの急でこめそうな稜線がC<sub>3</sub>におおいかぶさる様  
になっている。C<sub>3</sub>から持ち帰る事になったのは, フルムスストーブの  
テント, 登攀用具, 頂上の缶, 口旗, 等。個人装備では, スポーツ  
シューズ, ニッカーホースを捨ててしまった。

P-9を越えてC<sub>2</sub>へ帰る。C<sub>2</sub>では Doctor, 俊之, 木本, 広后が我々を  
待っていてくれた。C<sub>2</sub>のテントは, やぶられたので放棄。田中, 広后, 緒前, 中村,  
中村-尾谷, Doctor-木本, のガイルパーティで, C<sub>1</sub>へ下降する。P10の  
下降ルートでは, 写真をたぶんとりながら下降していった。  
C<sub>1</sub>では, バラカーブが温かく我々を迎えてくれた。

1976-08-12 (95) C1 → ABC

〇〇〇〇

C1にて測量。ABCへ下降。

午前中は撤収の準備で H.P. 4名が C1 入りしてから始めて荷作りをする様子が朝子であった。遅い朝食と昼食を摂ってから測量を始めるしついで目的とする Data をとたら pm6=15 であった。

11時ごろが出発し、平井先生直ぐ下降。A 候いに紹方、木本、広石が残っていた。

もう終了した西稜の各ポイント

をたんねんに視しおしてゆく。

測量用具は三脚とトランシット。

他に巻尺だけである。

問題は移動だけである。

結核木が基線作り

について悩んでくれ。あと

Data の記録は、広石。

が年換してくれる。

C1 の 8 人用テントは、もう 2 回目の使用で延べ日数に 90 日近く使っている事になるのですて帰る事になる。C1 には酸素が多く残っていたが、

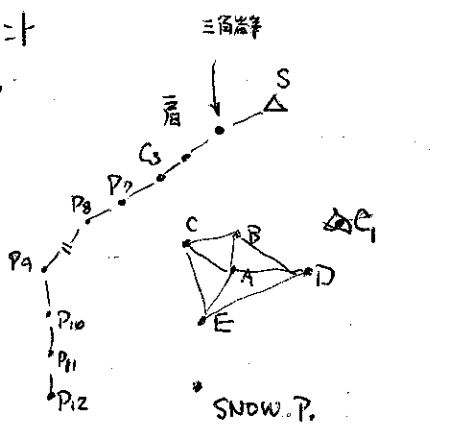
こちらを放棄する。測量の方は基線に対し C、D 点が近いので精度の点で問題がある様で、早く計算して精度を check する必要がある。

散々互々 C1 を去っていく。撤収は各キャンピングに、おれおれと思いがあって、隊員達は去りがたいものである。食料の残りは整理して、あとは

それぞれ好きなメニューにして食べてしまう。Asad は C1 用のテントと、70L のジャーナルをエキストラの荷物として持ち帰る。pm6=15 まで

測量にかかっていた。C1 を出発したのは 7:00 であった。ABC へのルートは、月も出ず、広石の行をたよりに、8:30 着。Capt. Rasool

Hassan も ABC へやってきて、登頂成功を祝してくれる。



1976-08-13 (96) ABC 整理

〇〇〇〇

今日も良い天気。ABC へ全員おどってくる。午前中は平井先生から、神戸新聞、本部向に登頂記を書く様申受け、Capt. がそばで色々話のたまたか、レポート用紙 2 枚の簡単なレポートを仕上げる。

pm3=30 広石 - Capt - 平井先生のサスライパーは、B、C へ下っていた。Capt. もさみしかつたのであろうか。ABC での一夜があげて、楽しげに多くの事を話し、平井先生と記念写真を撮って、少し撤収荷物も持って下っていた。

午後は ABC の整理。倉庫にいた雪穴をまず整理する。杖のバスシートをかけた 2M 角のものを作ったのは、2M の高さがあったが今はもう 1M

ぐらいになっていた。そのため雪がどけてしまったことになる。Doctor テントもたんでしよう。個人装備も整理し、Doctor、田中、林の路

4人おとす C へ下してしまい、中村井上、紹方、居谷の 4人が ABC に残る。7 時に降り積った雪も今はもう 10cm 以下になっている。今日も良い後

で、写真とりにも良い日だ。夕食後は、何度もチャイやデザートを作って楽しむ。17日にホルネー達を

B、C1 へよんでくれる様に午前のと、電報を何通かうつろす。昨日、Rasool を Khorkonduo へ、Shakool Ali を Khapla へ送る事

になった。C1 へ来た時は空気の清さを感じたが ABC へ来た時はさびさびと感じ

た。Capt. も一次の Mamoon 君の様にたった一日だけ ABC へ

やってきた事になる。但し今回の Asad 君の場合は一夜 ABC に

おどっているのでも少しはなの。午前まで、加ボコテントですごして

いたが Report 書きもたいへんである。登頂記に南には別に詳しく書いておく必要がある。

1976-08-14 (97) ABC → BC

○①①①

ABCにて方位をトランジットでやる。PM 6:30 ABCをあとに BCへ下る。

中村、井上、緒方、居谷の4名が一本のザイルを結んでそれぞれ15kg程度の荷物を持っての撤収であった。

午前中は、ABCを中心に各10-7の方位をとる。これは一次にて作成した地図をさらに詳細に正確にするためのもので今後も B.C, T.B.C, C.とやってゆかねばならない。

トランジットをのぞく時間が長かったのか雪目にもやられる。

Doctorは雪目にもやられらしい。水筒のものとか、目の奥の方もやられたらしい。

少し雪も出てきた様である。一次の時の測量は、平校とマリダトによるものであったが、今回、隊員達から良くできているという言葉を受取を良くする。しかし、トランジットにて、方位をとっておけば、例の地図をより正確なものとする事ができる。

ABCからB.C.へのルートは、氷の上の雪もほとんどとけて、少しまた雪が堅く凍っていて、クレバスも多く出ていて、直線的に歩けなくなっていた。荷の重いせいもあるが、3時間近くかかってB.C.へ降りついた。中村氏は今日も調子が悪いのかぶつぶつ言いつながら歩いている。2回ほど小さなクレバスのところでひっくりかえり、こいまたぶつぶつ。B.C.へは37日ぶりの帰かである。雪はice fallのサイドエレメン上の台地に降り積もったB.C.であるがすでに雪はとけて大きな岩がごろごろしている。整地もたいへんだったが今はもうあちこちに足跡を踏む程の配置にたっしてしまっていた。マクナムフラッドのあったところはまた少し雪と流水も残っていた。水がとれるB.C.生活はやはり良いものである。夕飯の生米をたいたごはんは言うまでもなく、おいしいものだった。

1976-08-15 (98) B.C.休養

○①①①

朝7:00起床。風も暖かい何いって空気もうまい。28x0<sup>m</sup>。朝食は高所食の残りの雑煮。朝食後今後のキャラバンについてのMeetingをやる。

14名-7-3名はABCの撤収。

(Meeting 録)

- 1) 8-23日の撤収に関する件
  - 1/5. 装備、食料、面帳を中心に荷物を Total 25個に制限する。
  - 7. カをポーター一袋としておろすか。
  - キャラバンの燃料は、金額的に7リットルの方が安い。7リットルとする。
  - キャラバン中の食料購入は  $\$5.300/day$ 。

2) 調査に関する件。JILコングスで様子をみてやる。

Member 田中、つる谷、~~田中~~、木本に Doctor をつ(べき)。

1) キャラバンの責任者。井上

○16日に T.B.C. 何人か おりゆる。 (田中、つる谷、Doctor)

○酒は T.B.C. でのむ。

明日からの行動も決定し今日は Meeting の後荷作りをやる。

今日は H.P.3名 (Asad, Ramazan, Ali Raja) が ABC の荷物を回収に2回 ABC に行つてくれる。連中は、21kgの荷物を10kg、午ごとに往復して回収してきたらしい。

荷物の整理は午後から始めて、装備、衣装、医療について終了した。持帰り品等に関しては Total の荷物の数をゆけぬ。井上、木本にて決定する事とした。

夕食は、すき焼風。昨夜と同様日本米のメシを及ぶりに食べるとの味に皆が喜ぶ。食後は、中村さんの持参の歌集をうたいまわす。平井先生が軍歌になると元気がでてくるので、おもしろい。

○10 JILコングスにて、温泉掘りも木本 Leader でやる。

写真フィルムの整理、おにや、リュック半荷はとっている事になる。

帰路キャラバンの名簿 (BC出発から)

責任者 井上 トラポート 居岩 木本

食事当番 8/16 中村 木本 (8/16夜 井上 広石)

8/17 登頂 Party at T.B.C. (緒方 広石 居岩)

8/18 居岩 井上 8/19 中村 居岩 8/20 木本 広石

8/21 8/22 8/23

Capt. が BC から Kharlu まで 6日 向実室が 7日間の payment を  
考えてくれれば 明日 ホーター の交渉がやり易いと言ってくれるので承  
認する。天気の方はだんだん悪くなって来た様である。

荷物の整理も一段落したところで 休養の方に入る。午前中は  
さぼったのであまりはかどらなかつた。

Exp. 末期になると皆神経がトゲトゲしくなってきた。口ぎたなく不平を  
言う事が多くなる。一番ひどいのは 小佐氏で まるで3つぐらいの子  
供の様にわかすまでしか。他の隊員にあたりちらして全くいや  
な気分である。一度ガンと言うべきかも知れないが 登頂も  
成功した事であるし。まあがまんの上でございよう。

1976-08-16 (99) BC 休養

⊗=⊙ ⊗-⊙

am 5:00 起床 小雪が降る中、ホーンに行く。久しぶりにホーンに代えて  
日記を書く。

本日の作業予定

1. H.P. の取り込み Eq. をはき出させる事。
2. 最終荷作り

今日は 田中 鶴谷 Doctor の3名が T.B.C. へ下降する。明日はいよいよ 帰  
りのキャラバンである。帰路の荷作りも 箱多でたいへんた。重すぎる  
ものや 軽すぎるもの等ができてしまったが 雪も降る。ホーター  
達もその中で待っているのかさむどうだし。そのまま出発する  
事になってしまった。(※ 8/17 の件)

平井先生と BC の上にある。Jm 程度の岩の上に大きなケルン  
を作った。ベースのところに 室を作って 例により 平井先生に隊  
員達の ~~名前~~ 名前を書いた紙をヒース缶に入れたものを作て  
もらい入れる事にした。一次の時のケルンは ハイポーター テント  
の位置にばりしまし 残っていたのかどうかわからなくなつて  
しまった。

H.P. の取り込み品のパックには L.O. を仲間させる。一応 H.P. 全  
員に分配して 残品の処理をし。帰路のトラポートは Skardu  
以後 全て空輸にて済む様に考える。

雪のせいで 先降下 BC 下降組は 行動中止とする。3人用テント  
の中で花札にしようけんめい。そのエネルギーで他の若い隊員  
達の 110 キングや 整理を手伝って貰いたいと思う。高所でしんどいのは  
あたりまえ。それに耐えられなければならぬ。活動しようという努  
力を忘れてしまてはますます 苦しくなるだけである。

1976-08-17(00) BC探収 → T.B.C. ⊕ ⊖ ⊙ ⊚ =

ゴミの処理で火を止めている時誰か何かを入れたのかボンと言う。今日は小生の誕生日。29才

Mohammad Choo がサービスで羊紙を持ってきてくれる。山田玲子さんからのものも入っている。

Khor kondus のホーラー達は Rasool とともに雪の中をよく B.C.まで登ってきてくれたものだ。

Khor kondus の Ali Mohammad は村のリーダー。ホーラー達を良く指揮してくれる。彼の持ってきた25人のリストの中から2名のホーラーを査定する。コゴゴスワラ以外には、コゴゴの Ali Mohammad (助平) とマアトだけである。5日間で Ghursay へ行き、6日間の payment で O.K. の文書をかき作る。おそろひ signature を1人1人取っておく。この交渉もすんざりで行く。

T.B.C. には、2:00 pm 頃着。緑がまばゆいばかりであった。T.B.C. のチャッカーにて、E-テルミス etc のミニドリフの挿花を20数枚作る。朝から雪が降っていて、ガスもまっていたので、今日はホーラー達はやらなかったらうと思っていたが、ラッセルの指揮のもと B.C. にやってきた。

今日は、シエルビ、カニの登頂も成功したので、荷物は極力少くして帰る事にした。テントもほんの一匹を持って帰る事にした。クモコグはほんと Hassan にくれてやる事にした。荷作りをおわり、B.C. の整理をし、不要品は全てもやしてしまふ事にした。昨日作ったケリンの2:30に平井先生が酸素ポンペを一本とまねたりして、長く滞在したシエルビ、カニをあとにする。

中村、木本、居谷、井上の4名が最後まで B.C. に残ってゴミの処理にあたり、火を見守る。B.C. のエレンを下り始めた時、再びボン! という音がする。ゴミおさりをやっていたホーラー達が火のそばにいたので、心面を居谷を見せやらせたが無事であった。

T.B.C. の下降相のは、49日ぶりの事である。三日月形のオイドモーンの道は、すっかり雪も消えて、所々、緑の草地もあり、もう遅くはなりましたが、花も咲いている。久しぶりの緑が目にしみる。

氷河へ出る所は、氷がすっかり形を変えて、9mm の氷の所は通らずに、氷上方の ice block の崩壊したと230% 氷の岩へ出る様になっていた。平坦部へ行くと、隊長、Doctor, Capt. 達に追いつく。氷河へ出る手前では、モスボールを見つけたので取っておく。氷河の合流部のエレン帯も、氷河上の河は水量がずいぶん少くなっていて、びっしりする。サクラ赤外フィルムで氷河の様子をおれこれとっておく。

また ice fall の右岸のトラバース部も、氷がもう撤去されていて、4所だけ、氷のスロープを下降する所に氷が変更されていた。雨が時々強く降って、いやな日であるが、ホーラー達は良く頑張ってくれた。

T.B.C. 着。後エルの二十日大根もかいいらしい葉を出している。食べさせてもら、たがうかいぬ。

9食はマトンカとスロー、フィルのゆでたのに、何いってもしらぬの、ビルと、ウスキーに通さざわめて、11ホーラー、コゴゴスのロホーラーおわめて、日軍歌合戦、と相成った。ホロよ気分になれたのは、高度のせいもあるだろう。

木本2人でシエルビ、カン氷河までおんざ、ロク用の氷を取りに行った。アルニカ、アの中、アチ、アチと、良い音をたてて、大古の空気が、元の大気の中へ散っていた。Shoyu Kangri 登頂、ジグザグ、バード。

居谷、2人で、吊テントに一担収めたが、玲子さんの羊紙のうす紙を要求され、バラテントに移って、11:30まで、残りのウスキーで語り合った。

1976-08-18. (401) T.B.C. → エルゴダス ●-◎●●●-

いよいよT.B.C 4300m 前後にして帰りのキャラバンに入ったが、今日で3日目の悪天のため、さよなら Sheyri Kangri は T.B.C の時も、エリゴダスまでさすじまいであつた。残念である。

ホムター達はエルゴダスまでと頑張ってしる。虫登は少し遅く、Low porters が 6:30、ホムターは 7:00 くらいであつた。

パンキチエ氷河でスッテン右のわきを強(ア)ホク(ア)症か? 最初の(ア)スグ? (化粧柳)の木のところで、エルゴダス、7700の作るラシーのできたてのものまでおろす。5人で、Rasool、Hassan の子ニをmixして、2はいのむ。

エルゴダス、Peak の氷河の下の寝湯には new slope を使う。バカネ、エリゴダスの下降は事のほか、長く感じる。スッテンのいたみと、一人で下つた、せいか? カスガのつたところなど、山の大きさをひしひしと感ず。Kherleondus pm 2:30 着。木本と温泉に行く。2ヶ所源泉があり、すた湯が湧水の様に物所出ているのが、右岸、少し下の100m 四方の池になっていて、70°C くらいの湯が出る。アソフの Boiling を試す。おため、上半身を Capt. の石けんを作って洗い清める。毎持っている食当は、井、広飯。

エルゴダス、7700 が水晶をアソフ Rasool で何とか持ってきたが、値切つて Rasool で、アソフに買ってから買う。バルティ語で エルゴダス、7700 というようがあります。2頭の 7200m くらいのものである。(2/19:2)

エリゴダス、氷河の舌端近く右岸の P.T.L. (エリゴダス) のラシーやバターを作るためのエリゴダスがある。今日の下山では、ちよつと牛や羊の放牧にやてきたエルゴダスの秋達の一行に会い、ここで休んでラシーのうまいのをのむ。平井先生は、アソフ、7700 の角に、かなり引かだしていた様だが、小生止めさせしよう。牛や羊を放牧中で、Sheyri Gang

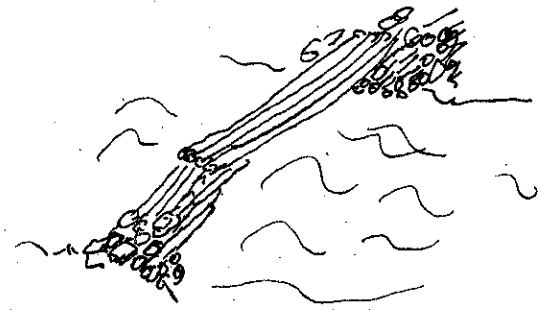
1976-08-

Glacier の右岸の ablation valley は、にぎやか。水が流れていて草も茂って、いい所。水量はたいぶふえていた。往路のキャラバンで、ホムター達のストライキのあと、氷河舌端の草地には、Strong Ali や、Chino の Mohammad 爺さんが、コバニーやリンゴ、キリー、チャイを準備して我々の帰りを待っていてくれた。エルゴダスのキャンプは橋を渡、たにう。木長宅にあずけた荷物も持ってきて整理し直し、夜遅くまでかかつてパッキングした。すいぶん捨てるものがここでも出てきたが、良くやってくれる L.P. にも支給してやる事とする。

明日から田中、Doctor、雄谷を残して、植物と社会学の調査をする事となったが、その作戦を相談する。Rasool も残す事となり、キャラバンのメンバーを我々が見なければならぬ様になった。

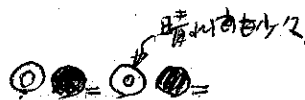
但し、後さんほんとかにビッコ。今日はすいぶん遅くなつてからキャンプにたどり着いた様だ。

夕方、灰色の雲の中、一瞬だが、Sheyri Kangri の頂上が姿を見せてくれる。良い写真を撮りたいと期待していたのだが、全く悪天で残念であつた。



バルティ式アソフ。

1976-08-19<sup>(102)</sup> Kharkondus → Tラコル



田中、鶴谷、岡本 Doctor, Rasool. の4名は社会学調査と植物調査のため  
 後この足が悪く、という事でL.D.の目をうまくごまかし、コルコンダスに一日  
 stayしPartyを分断して今日から活動する。

今日の行程は、コルコンダス—カマティン—チゴロン—ラット—ブラコル  
 と完全に2日分であった。心配していたストライキとサボタージュも発生せず。  
 コルコンダスデポの荷物を加えて、25人、25人のポーターで出発する。

この荷物は、KharkondusのAli Mohammadの家にあずけていたものであ  
 る。

今朝は2名新しいポーターが加わる。2名は解雇。チゴロンのAli Mohammadの  
 兄弟も参加する。Doctorの薬に2名、食料雑品に2名計4名のポーター  
 で後発できるはずである。ChinoのMohammadもたぶん加わるで  
 あろう。彼の娘も骨が直ったそうである。

解雇の2名は、2日分のみRs120を支払う。Return Halfについては、さ  
 く10Rs/dayを支払われはならない様になった。

食当は中村、木本。今日は行程が長いだけに、しんとい食当である。

一昨日の時、Kharkondusから見たあのすばらしいSheyri Kangri  
 は今朝も見えず。出発せず見えるまでここにいたい気も  
 する。Lachitあたりまでは何とかすいすいと歩いたが、運日  
 のすいみん不足でブラコルまでが、実にしんとい思い。

ブラコルでは薄いかうまいチラーシーをのむ。牛乳も牛乳入  
 りポインクする。今はもう日本では得がた。しんといたこの  
 ミルクである。心配していたポーターの指揮については、  
 Mohammad Chooがはりきっている。

ブラコルの午前で、ニユクワリが帰ってくる。Nassanの子供  
 マママリも父を迎えにニユクワリと帰ってきていた。

1976-08-20<sup>(103)</sup> Tラコル → タガス



晴れ間と秋空を見た。

今日は食当で居谷と4:30起床。久しぶりのチャリティ。4枚を食べる。バターを  
 つけて食べると実にうまかったが、小佐氏は例によって食せず。今日はタガ  
 スまでという事で、ポーター達の出発も7:00頃となった。今日は7名のポーター  
 を入れて出発。解雇の7名(コルコンダス7名)には3日分と半日分と10  
 ルビーのポーターを加えてRs220/head支払う。

ブラコルからシまでは、2時間。少し天気も良く出たが、シでは  
 は、少しのぞいた晴間が、すっかり秋の気配をばらばらしていた。

シでは、コバート、リコを持ってきてくれる。小さな女の子。写真をとっておく。  
 ポーターの指揮は、マタチがやってくれる。25人くらいならば、我々としておさ  
 びとコントロールに神経を使うこともない(気楽なチラパンができる)。

今日の行程はタガスまでという事だが、昼食をタガスでとる事としたので、  
 Nassan達を先行し、昼前にはタガスに着いた。ブラコルからタガスまで  
 -昨年は、シ、タガスともに水が悪かったが、今回はきれいな水が得  
 られた。タガスで比較的きれいな水晶setをRs200にて購入する。  
 花に通った福風山の会?の連中がすでに植を決めていたので、あまり安くは  
 できなかった。

シの中ほどから見る秋空の下のタンサムヒークは、3ヶ月前  
 外形に今朝は雪を少しつけ、すみきれた空と秋雲のコントラストが  
 すばらしかった。

今日の夕食は、Strong AliのHotelで食べる事にする。チキン  
 カレーと、チャリティとライスにサラダ付でとてもうまかった。チキンの  
 川口、サウ、ル、サンのところに持ってきてくれるものは別で  
 とてもうまい。

Choran Rasoolが追いつく。pm 8:00。後さん達は今日はLachitとま  
 らしい。明日はChursayにstayという事です。

1976-08-21 (004) タガス→ウルサ→7ヤル ①②③④

昨日6日間も悪天が続いている。入山の時も下山の時も悪天でほんとうに折角の天気は今年は不安定でいじめるのである。Sheyriも女を見せてはくれなかったし、今日はムニャフィルムが見えるウルサにやってきました厚い雲がムニャを包んで見せてくれなかった。食当は井上広石。帰路のキャラバンは、バラホーに千石の主に成るやうにお相手を交代して一夜ずつ話しができる様配慮したのだが今日は小石とんが残っていて入る様にすめたが、いやからて入ろうとしなかった。

今日は、タガスからスエの対岸までという long distance、コルコンダスの Porter 達はそれでも文句を言わずに良く頑張ってくれた。ほんとうに良いボク達である。一応本隊の復路キャラバンを終了したことになる。Khor Kondus の連中もよこで帰っていった。B, C からこまで5日間、良くやれた Porter 達は7日分 Rs 400 を得、Khor Kondus でテジして来た連中は Rs 260- 7ヤルからの(7名)は、Rs 170- Tagas で Strong Ali と交代した若者は Rs 110- を得てそれぞれの家へ帰っていった。

キャラバンの途中 am 10:00 頃 Haldi 着。3名の衆隊がやってきました。オム、スールや Porter 達がバルティ、ダンスをうらうしてくれ、ボク達に3名にそれぞれ Rs 5- を贈る。スールやイルサンも Rs 10- ずつ与えていた。

タガスのムカ(二次の low porter で食器ワラをねていた)がガネットを持ってきてくれる。木本のボロカ、7 + Rs 50- にて約2000年に入れた。

タガスからウルサまで毎日1日行程なので、ウルサからこのギョリーまで毎日、再び1日行程。ボク達は良く頑張ってくれたものである。

1976-08-22 (005) Rope Trolley → Khyalu ①①①①

6:00 起床。木本の居るが食当で昨夜の干キス-700の残りを利用して、おじやを作ってくる。久しぶりに良いお天様な気がする。この7ヤルのある場所は千ヨリバトという今はもういっしょ側になった。エゴ-700の村へはもうおこいという感じである。

ガラーを使って荷物をスエ側へ寝すため6名のボクを残している。(Ego-700)



よきを折るのに使う。

昨日は6:00pm 頃、このガラーのとこに着いた。展示会用におみやげに民芸品を集めはじめ、バルティ、エゴ-700 やトセー、etc 集める事にした。タガスではエゴ-700 や、女性用のバルティ、エゴ-700 やガネット etc を手に入れる。

こまはくと Capt. も帰心矢のごとして、スエ側に jeep が通るので、彼自身が Khyalu まで jeep のアヒニジに行きついでいる。カスルは、このロ-ポトローの車が Rs 6- (1 Box) を要求しているというので、何とか Cost Down お様伝えておく。今日の仕事は、H.P. & L.P. に完全にまかせておくつもりである。

Rope Trolley は、荷物3個程度が積める。am 7:00 に start して完全にわたおえたのが pm 1:00 頃だから、約6時間の仕事であった。昼頃にうま( jeep がやってきました。この jeep を使えば復路ではほぼ全員が Khyalu へ帰れる事ができた。jeep 代は1ト、70 Rs 420- で Total Rs 840-。Trolley のとこ3の右岸の町は、110インドというところだが、Nassan の言う事であり石炭かではない。朝から、全て仕事は Rasool にまかせ、こま連日の暇不足を解消する。約2日はねたであろうか。

エゴ-700を逆のほたは、千ヨリバトという村があるというので、これは、今はもう在り領になつてしまった。カパルまでの道は、スエから、左岸の女の



上に出てすばらしい高原を走る Haldi, Tagas Chino あたりの裏山  
すなわち K-7, K-6 の山群と、カ-7, K-7 の山群の前後、岩峰  
群といったところか、すばらしい三ツツな、花崗岩の針峰群と、カレ  
ト川の後方に立ちよってくる。7-3 谷の奥には、高い雲の下に、マ  
-トルムのすそが白い水河と、カ-7 下の岩稜を見せた。空は  
もうそろそろ秋もようではあるが、川原も **jeep** もまたまだ日射しが  
強烈であった。

我々の登った、カ-7 谷の奥には、カ-7 の一帯が雪を  
けて、カ-7 の麓の様に並んでいる。カ-7 谷とカ-7 谷を分つ  
他の尾根もまた、この Khaplu の上部高原から見る風景は  
将来の観光地を思わせる。立つ重要な基地になる様に見える。  
このカ-7 谷の奥にある Khaplu の町は、道すから、緑に包ま  
れた Khaplu の町を見る。ほとんど雪で、美しい。バルネの町という  
印象をける。ここは、カ-7 谷の奥に、急いで、バルネへ一度た  
けに行けなかつた。カ-7 谷の奥にある Rest House. 1100 米。西はすば  
しいところ。

jeep がバルネに入ると、カ-7 谷と、Hansen がカ-7 谷に下り  
た荷物を前に我々を待っていた。お言葉は出発の際にもこのカ-7 谷  
の Rest House の保管料について、もめた。け。

今日の食事は、木本と居る。Khaplu へ帰ってから、Rest House  
の指示が、カ-7 谷も午に、何かが作ってくださる。  
Pambo の交信を試みる。後谷の3名はまだ、このカ-7 谷へ出てきて  
ない様である。

とにかく、長かつたカ-7 谷の遠征隊も本番の登山は終了  
した。心ゆくまで登頂の喜びを味わい、バルネに、1100 米  
外を楽しみながら帰って来た。

1976-08-23 (06) Khaplu

◎①①◎

朝はあつくりいて、みそ汁と、米の朝食を緒方が作ってくれる。  
中村、緒方の2人が今日の食当だが、中村氏調子が悪くて一日中  
お休みの。

荷物の整理と、キングが今日の仕事。茨装は、610 の 710 くらい  
になり、RC での荷物の作り方はかなり成功した様である。これで、飛  
行機で荷物を送り返す事ができるとある。明日、後谷の3人組が帰  
着すれば、expedition も終了である。

今日は、Mohammad Choo の件の解決が必要で、昨日のガラー引き  
の Rs 60 と、カ-7 谷での Rs 50 kg の買却費 Rs 150 で、差し引き、Rs 90  
の差引からもう必要があったが、我々の手紙を一回サービスで持っ  
てくれた件と、カ-7 谷を2日ほどやった件で、Rs 90 をボクシスとして  
与える事でキャンセルした。

Rasool を通じて Rs 160 lb を Rs 160 給にて買却。K-2 (カ-2)  
150 箱も Rs 105-にて買却。少しでも会計の方の手助けをやる  
必要がある。小生の競馬ラジオを、連絡がほしいと、Rs 200  
でわけやる事にする。

夜の8時、後谷の連中が、カ-7 谷より jeep 車で帰着。これで10名そろって  
無事カ-7 谷に帰ってきた。

手紙がくる。山田京三君の手紙には、ソフトボール大会の優勝時の  
写真と、日産九州向、試作DLの写真が入っていた。後の連中の元氣  
な写真、彼もやさしい親切な男だ。女の3人も加っているのが  
花でもううれしいね。久しぶりに見る、日本の女の子の顔でもある。  
母のちよ通、昼食後、全員に読んで日本の近況を知らせる。  
オリビオ、7の件、田中ロッキードの件、朋子の事、etc. 8月4日  
までの分が着いている。

administration officer が Rest House を訪ねる。Certification

を要求される。Post Master は trout と他の魚をとどけてくれる。Capt. は今日は午後から S.P. と fishing に行く。

H.P. 達の食料は B.C. にて Rasool を通じて 14日分程度支給したが、Exp. の残 Eq. を多く持ちすぎで H.P. 10人でホ-9を雇ったりにいたので、Khapluでの食料が切れてしまっていた。今日は atta 5kg 程度支給した。

中村氏。調子悪し夜 Doctor が みたと 38.9°C あり注射。一晩の睡り 2人のやた熱痛と良く似ている。おそく明日も調子の悪い一日であろうと思う。もう最後だから良い様なもの本人もつらい事だと思ふ。小生の右の肩のいたみも毎日変りな。明日は Doctor に見てもらいたい。

木本は、活生灰による水の3週を今日も試す。昨日はガラリーの所で Shaiyok の泥水をのんでいる時やめたが、一はいのまきてほしかった。今日は水筒一ぱい 配給をうけたので明日の水で 野立てをやるかという事になっている。明日の食当は小生がやる事になった。

田中、岩木本はくろみの木下にユラフをいて話し合っている。11ホ-9-3名はベラゴラにて、荷物の番人をしてあげている。夜もふけてきた。Doctor は中村の看護のためもうしばらく休む事もできない。痛くて帰ってきた夜だけに気の毒である。

チヨコルニの Ali Mohammad も他のホ-9-達も帰っていた。カニコルムよさよなら、Khaplu よさよなら 今度来る時はきつとあつすばらしい Exp. を引きつれてやるぞ。

Khaplu 川に行つて洗たくと体の washing をやる。11ツとシャツも新しくしてズボン、カセータをきれいに洗った。明日は Rest Day.

1976-08-24 (107) Khaplu ◎①①①

食事当番。今朝から一工夫でやる事にする。天気の方は今朝もそんなに厚い雲があるわけではないが悪天。

食料購入。チン2羽 Rs 100-。11ホ-9-用 1羽 Rs 50-、  
ラギー - Rs 50-。マ9- 30' Rs 30-。ピマ- Rs 20 計250-  
(庭のラギー一代 Rs 30- も含めておいた)

梅の課長宛に手紙を出す。母、山田玲子さん、社長の4通。  
Dm 4:00 D.C. Office の招待を受けて、tea Party に行く。果物がうまかつた。Tea を少し飲みすぎた様です。D.C. の後 Doctor とバラサ-ブは、S.P. に夕食の招待を受け、いそいそと行って10時頃帰ってくる。

阪大隊が、夕方 Rest House に着く。石原由元気さうな顔を見てくれる。彼等は7日に登頂したそうである。あの日はあまり良い天気ではなかった様に思うが、例の悪天時は、A.C. で頑張っていたそうである。Shoyu の写真も多くとらえたそうなので帰国後に期待したい。

Doctor に薬の整理を依頼する。Deposit には反対であるらしく、きよく Rawal pindi まで持って帰る事になった4 Box. もあるのでたいへんだ。

夕食の当番は、木本にピコ-干ヒム、9をやるか? 木本も Doctor の Raja をおこなうの件について途中で stop. カサ-ブの仕事となった。

ここからのトランスポートは、タンホ-ル Box. 13. 食器 1.  
食料 Box 1. 火盆 2. ガラス 1. 車トランク 1.  
カマ Box 3. フィルム 1. ティン 1. 三脚 1.

Total 25個.

おそろい服装。明朝6時。jeep (139) 3台マ-9-

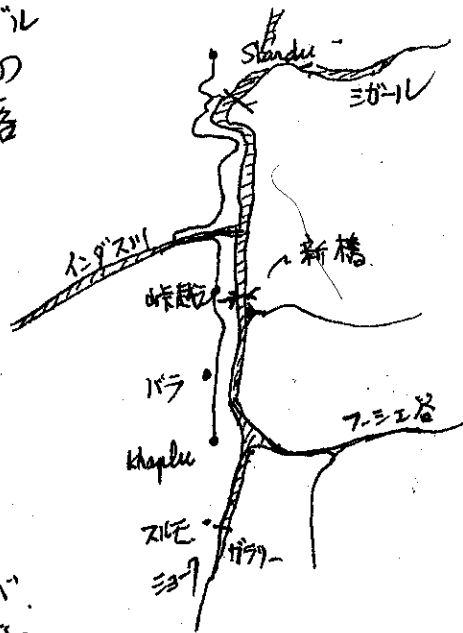
1976-08-25(08) Khaylu → Skardu ①①①①

食事当番。広石、(昼食はビスケットを持ってもらう)。  
Jeepは、トヨタを2台、ウィルスを1台チャーターする。最後の1台は完全に11人乗りの専用となった。阪大の石原他の連中に見送られ出発する。ジープの荷台で荷物の上に乗ってのドライブ。行きの時に比較し、早く感じる。Jeepのトラブル

は、いつかつきものであるが、東北大の連中の様に、タイヤが取れて転落という事にはなっていないので心配でもなかった。今回は平井隊長 Capt. の乗った Jeep のタイヤが二本パンクする事故があった。その他はぬむりだけであった。

Skardu では Rest House へ入って、一泊おちつく。マス女は控室がないといって、狭くおちつきたか。

Capt. と居谷の努力によって、別荘の一室を与えてくれた。木本と銀行に行こうとしたが、今日は休んでいてドルは換金できません。しかし、中村がエミールに支払いできる程度に残っていたので、H.P. の支払いをする Ghulam Rasool を呼んで、all H.P. について Regulation 通りに支払う事になった。木本、スールの顔には失望の色が濃く浮んでいた。Ramazan と、Asad はさすがにうまい。Hassan は少しでも多く牛に入る様子を Capt. にうたえる。いずれにしても今日は、H.P. 解雇 明日からは、1.7 日の生活である。Rest House 内は112 が多い。



1976-08-26(09) Skardu (Satpala), ③①①③

食当林。久しぶりに7:00の朝食。Capt. 井上は P.I.A. Office に Booking に行く。C-130 の可能性について聞く。又、11:00 までこの道の渋滞のため C-130 が忙しすぎる。ここ数日ストップしている flight のせい。たいがいおいてるらしい。4.5日待つ必要があるだろう。中村、木本は銀行へ。他はバザール。

Ramalpindi で食べたチリチリを Rest House でドライブ。今日は奥にうまいタルブースとカブサにめぐり合う。

昼すぎ Rasool がサントー-オールドを持ってきてくれたので写真を撮る事になった。

PM 3:00 Rest House から平井、中村、井上、居谷、木本、広石の7名が Asad とともに Satpala に行く事になった。サヒワラ湖にて、広石と Asad をモデルに使ってオールドの写真をとる。Jeep のドライバーも Asad 宅に泊まる事になる。Asad 宅の2階の一室もけっこうきれいになっていて、Sheep の写真も入っている。平井先生のサヒワラの H.P. Hassan Mohammad も来てきて、話す。50才でおれは手は強いと話している。木本、スールはサ-ターで B.C. のテニ内にいるだけでオレはよく働いたと言っている。アリの K2 にも参加したがキャンプは、第2キャンプまでであった。

Mohammad Ali (音イリガ) の話だと、Satpala の人は、ギルギットが書きたるそうである。Asad はかいはい、我々をもてはしてくれる。Satpala の人々は従って、ギルギットの三十語とババル語とウルドゥ語を話さなければならぬ。Asad の弟もあつて名前が Yousaf という。アサドがババルに話さなければ、ギルギットを話さなければならぬ何か理由がある様だ。

1976-08-27(11) Skardu

◎◎①①

カハラの Asad 宅にて朝を迎える。彼はせいぜいはいのもてなしをしてくれ。朝もスローヤキ、マル等の料理を出してくる。カハラは今はソバを作っていて花が今を盛りとしていたが、Mohammad Ali の話したと、イタを取り入れた後にソバを作っているようだ。ゾンヤ、羊や牛等は今、山の上の牧草地に行っていて、そこではラ、シーヤ、ギーを作っているようだ。ギーは、高い値で Skardu のバザールで売ることができ、塩と砂糖、コロシなどをその金で買うようである。カハラには、小学校があって、カハラ語を教えているのだが、英語のわかるものはないとの事。Assad の家のまわりは、親類関係が住んでいて、女の子はかわいい子が多い。

昨夜は居客の持っていた小さな折紙で鶴を作って女の子達を引きつけて、緒方が写真を撮った。

Jeep の運転手は感じの悪い若者でズズし、昨夜は Asad 宅の食客となっていたが、今朝も食事が出されるまではおとなしくしていたが、それが済むと我々を忙がせた。車は木ボロでエンジンがかかりにくく、テフニックもだめなくせ文句は多かった。仏教遺跡に行く様指示したがのらりくらりとにげて Rest House へ帰ってしまった。しめて、料金は Rs 200- であった。帰ってからは、昼飯をし、後久しぶりに、花札に参加する。Rs 49- の勝ちだった。今日も flight はキャンセルされた様で、もう数日 Skardu にて待たさるようである。

Asad 宅にて少し下痢。70マイ一粒のみ。夜は、三ツワをあひ。頭の毛をハサミでカット。ひげの牛入れもする。いかげんは切り方だが、さっぱりした。これで日本までこのまま帰れるのではなかったらうか。Doctor. 居客。広反の3人は、7:00頃 Skardu の映画見物に出かけた。二年前には、映画館はなかった。スルビもだんたん都市化していく様に見える。

1976-08-28(11) Skardu

①①〇〇

今日も飛行機待ち。P.I.A の情報を、Capt. から又聞きしたところによると、P.I.A は、C-130 を半運送しようとしているが、軍の方が忙しくて見込みがない様である。例え来ても食料とか他の物資輸送が目的で、旅客は送らないであろう。

マヤス が Depot させた jeep 代は、6/12 Meeting が持たれて、Return は Half になったようである。我々は 6/11 出発したので金は返せないという事である。

夕方から Rasool の Fx 111 にて、夕食に招待される。マトンカレーのうまいやつを食べさせてもらう。今日からマサケン入りで、日中食事がとれなくなる。今日は L.D. も夕食はたべすぎぐらいに食べていた。

Asad の家で虫に食われたところが 30 軒ぐらいあって今日はそれがかゆく嫌うない。火ツルをぬ、こお。

ようやく雲が切れ、今夜は満天の星空となった。明日は、P.I.A も飛んでくるであろう。ほんとうに、インシ、P.T. で全く困ったものである。乗客を待たせる事など、へとも思っていない様である。

インド隊、日本K-2 隊、阪大、神大、おSL. etc の Party が、飛行機待ちをしている。もうすぐ東北大も帰ってくるであろう。

花札は今日は調子悪く、まけが込んでしまった。明日は牛紙書きでもしければ、今日はマニカをよんだりしてごろごろしていた。洗たくを少ししただけである。

1976-08-29 (112) Skardu 4 ○①○○

6:00 たっぷりぬたせいか。早く目をさめ。外へ出てうまい空気を吸え。マシヤの赤外を利用した photo を撮る。インダス川。ホルドナト。及ヒスカルトの裏山について。とておし。1/60。F5.6 及ヒ F8 で R.フィルタを使用。

ドイツ隊の連中が 空港へ出発。しかし P.I.A からの情報では途中天気が悪いという事で 2便ともキャンセルされた。今日でフライト待ち 4 日目である。1日以後 C-130 の来可能性があるという事なのでしばらくは待たねばならない。

食当。中村。朝はうどんを作ってくれ。

Nassam は一担解雇されたが Doctor の個人的なエッグという形をとて Rs20- で毎日の食事の仲払いをさせる事になった。別にいいなくても良いわけであるが、食当としては、いた方が便利であろう。それに明日からは完全に Pakistani 食になるのでいた方がよい。彼も Lahore 行き の seat を確保するため我々といっしょにいたわけだ。

手紙書きもはかばかしく、花札にのみ明け暮れる一日であった。フライト待ちは、これから何日になるかわからない。たぶん長期戦になる事と思う。C-130 がこない事には、解決しないと思う。Ayaz を push して T.D. から働かせる必要があると思うが、行きの時と同じく、何ら積極的に働きかける事がない。

緒方の散髪をしてやる。けこう見れる様にできた。Doctor なる岩さん。平井先生もこちらはトコヤへ行ってきた。仏教のレリーフの大きいのが Skardu にあって、今日は早井。居谷。広石が見物に出掛けた。明日は我々も行きたい。

1976-08-30 (113) Skardue 5 ○①①○

昼までごろごろしていたが、Capt. P.I.A より C-130 の来る情報を得たので pm1:30 jeep をチャーターしてきて、1810 の荷物と木本。居谷を先に Pindli へ送るべく 空港へ行く。1台の jeep は 1976 で今日ギルギットの行くと事チャージは Rs14/1 でリターニティーはなし。1台はワイルズの jeep これは Rs120 + 60 total Rs320- であった。Capt. と小生も 空港まで行く。残念ながら明日は C-130 に木本。居谷をのせる事はできない見通しになったが、2名には 空港に stay してもらい 明日、荷物の Booking を取ってもらう。できれば Pindli へとんでもらう事とした。たぐて七時に行ったやつがあつかましく jeep に便乗して 空港へ行った。

今日は食当 鶴岩。アシスタントが 広石で、とにかく無事任をはたしてくれた。パニケキを買ってきてくれる。

ドイツの連中も今日二度目の airport 通いであるがキャンセルで夕方帰ってくる。無事に jeep 代を使っている感じである。平井先生も ひまつぶりに苦勞している。仕事をしたがてこまる。

先生の考えた残務 主な役  
1. 写真 井上。 2. 報告書 ツル岩。 3. 展覧会。平井。広石  
4. 学術報告 田中。 5. 会社お礼まわり 平井。ツル岩

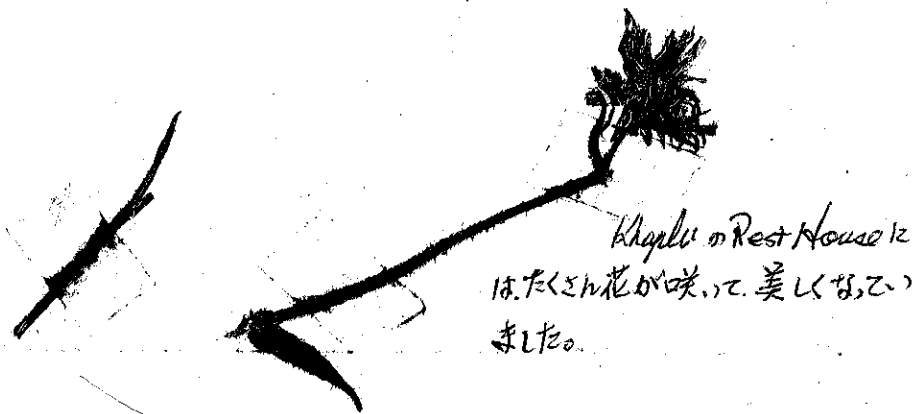
おとしさん(じり)の M. シェアフィルム隊が、マニエ岩から帰ってきた。バルトロからマニエへ出てきたか珍しい記録である。彼らも M. シェアフィルムには 辛二すうされて、西稜と北稜をトライしたらしいが結局 5600m で引き返してきている。首登のバリエーシニートというの困難のものだろう。リストハウスは満員で、裏手に 2ヶテントを張っている。3人用の吊テント(みずの)を使用

しているが快適そうである。

今日まで入った登頂情報は Azag のリストによると次の通りである。天候の不安定は今年ではあるが、良く登頂したものである。

- |         |          |               |
|---------|----------|---------------|
| バルトロカンリ |          | 茂浦工大          |
| スキャンカンリ |          | 学修院           |
| トランゴター  |          | 英口            |
| ハノイジュ   |          | Pakistan Army |
| アプロサカ I | 8/7      | 阪大            |
| シニギカンリ  | 8/8, 8/9 | 東北大           |
| エールセカンリ | 8/10     | 神戸大           |
| バターラ I  |          | ドイツ隊          |

今年で目ぼしい山はほとんど登りつくされてしまった感じである。バターラ I 峰がすばらしい。そろそろカラコルムの山々のまとめの本が出版されてもいい様に思う。一ツ企画してもいい様に思う。ポーランドの K-2 隊がどうなったか気になる。かなり頑張った様であるが、8000m 以上の悪天はかなりキツイはずは？



Kheplu の Rest House に  
はたくさん花が咲いて、美しくなりました。

1976-08-31 (114) Skardu 6      ◎①①①

夜中に腹の調子が悪くなり、下痢と嘔吐をやる。食べ過ぎか、消化不良らしい。あとは腹がいたただけで下痢もないし、変な具合である。今日もまたフライトはキャンセルされた。ドイツの連中は今朝も jeep を乗って空港まで行った様であるが毎日 jeep 代もたいへんである。今日は学修院パーティが Skardu へ帰ってきた。L.O. と、ケカして、L.O. H.P. L.P. 全てが荷物をなげ出して帰ってしまった。空身で Rest House へ帰ってきた。荷物のところには、2人隊員を残している。どうだ。変な L.O. がつくたいへんである。スチッドもぎやかになった。早くフライトが来ないと、多くの遠征隊でスチッドもたいへんである。

学修院の隊員にパンツを一枚とられる。今日の食当は田中副隊長。朝食はアラフ、昼はシヤカ任と、ゆで玉子、夜はごて何を作、てくれるか。母からの手紙がどういわけか、学修院の奥、まで行っていた。連中、ゆでゆで Skardu へ持ち帰ってくる。ポーランド隊も頂上までおぼろめとせまりながら、2度の attack に失敗して、今もなお頑張っているところである。こう悪天が続いてはさぞかしたたいへんな事だと思ふ。明日かあつてあたりは、東北大も Skardu へ帰ってくる様な気がする。ヒマフオ氷河のバインダラックと、ラックがどうなっているのか、このあたりになるところである。

空港の木、屋舎は今日は荷物の Book ing を済ませたであろうか？ Rest House には帰ることになった。空港も住みごころが良いのかも知れない。

今日はヘリコプターが Rest House の荷物へリポートにやってきました。このくらいがニュースか？ あつて何日待たされる事やら。Ranayan が三ガールのホリスに靴、ヘルメット、Rs100- を取り上げられたというニュース、これは S.P. にふたえる事になる。Jeep の Return Half の件は、明日 D.C. につけ合ふ事になっている。